



Utamarō
Sharaku
Hiroshige
Kunisada
Hokusai

浮世絵

展

歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演

だのろきよえてん

同時開催
R18

受贈記念特別公開

まぼろしの春画
国貞三源氏

歌川国貞(1786~1864)は、美人画と役者

絵という浮世絵版画の主要ジャンル第一線で活躍し、浮世絵師の中でもナンバーワンの作畫量を誇る人気絵師です。国貞は春画においても才能を発揮し、源氏物語のパロディーである『艶紫五拾餘帖』、『花鳥余情 吾妻源氏』、『正寫相生源氏』の『三源氏』は、その彫りや摺りの技術の高さから、多色摺木版画の頂点とも評されます。このたび、当館へ寄贈された『正寫相生源氏』初摺本は、永らく所在不明となっていたのが、近年新たに見いだされたもので、今まで知られていた『三源氏』の中でも群を抜いた出来栄を示しています。加えて、ほぼ全てのページにおいて、金・銀・青貝といった贅を尽くした摺りが用いられており、その豪華さに目を奪われます。受贈を記念して開催



「正寫相生源氏」(部分) 嘉永4年(1851)頃

1月28日(火)~3月22日(日)
福岡市美術館 特別展示室

主催:福岡市美術館、読売新聞西部本社、FBS福岡放送、チケットぴあ九州
[観覧料]大浮世絵展の一般観覧券でご覧になれます。
本展示のみ観覧する場合、一般(18歳以上)300円。
※18歳未満の方はご入場いただけません。
※春画には刺激の強い表現が含まれています。
※大浮世絵展の一般観覧券をお持ちの方でも、本展示コーナーに入場せずに展示を観覧することが可能です。

2020年
1月28日[火]~3月22日[日]
[休館日]月曜日(ただし2月24日は開館し、翌2月25日を休館)
[時間]午前9時30分~午後5時30分(入館は午後5時まで)



Utamarō
Sharaku
Hiroshige
Kunisada
Hokusai

浮世絵展

歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演
Special Exhibition Five Ukiyo-e Favorites

[観覧料]一般(18歳以上)1,500円(1,300円)、高校生(18歳未満)800円(600円)、小中生500円(300円)
※()内は前売りおよび20名以上の団体、満65歳以上の割引料金。 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾患医療受給者証の提示者は観覧無料 ※[国貞三源氏](18歳未満不可)のみ観覧する場合、300円の観覧料が必要 ※[一般]には、満18歳以上の高校生、大学生、専修学校生等を含みます。本展では、一般観覧券で入場できる同時開催「国貞三源氏」展にて春画の展示をいたしますので、観覧券購入の際、身分証のご提示にて年齢を確認させていただく場合がございます。
チケット取り扱い ◆チケットぴあ/セブン-イレブン(Pコード:685-021) ◆ローソンチケット(Lコード:83901) ◆イープラス/ファミリーマート <http://eplus.jp>
※会期中のチケットは当日料金での販売となります。各プレイガイドによって手数料がかかる場合があります。
[主催]国際浮世絵学会、福岡市美術館、読売新聞社、FBS福岡放送、チケットぴあ九州 [後援]福岡県、福岡市教育委員会、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団 [協賛]光村印刷

福岡市美術館へのアクセス

- 福岡市地下鉄**
[空港線]大濠公園駅(福岡市美術館口)~下車、3・6番出口より徒歩10分
[七隈線]六本松駅(科学館前)下車、2番出口より徒歩10分
- 西鉄バス**
[系統番号13・140]で「福岡市美術館東口」下車、徒歩3分
[系統番号6・7・12・113・114・200 ~ 206・208]で「赤坂三丁目」下車、徒歩5分
[系統番号6-1]で「福岡城・NHK放送センター入口」下車、徒歩3分
- 車**
福岡都市高速「西公園ランプ」から5分
福岡市美術館専用駐車場(有料:1時間200円)
利用時間:午前9時~午後9時(開館日のみ)



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 FAX 092-714-6071
<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

※週末、祝日等は大変込み合います。
公共の交通機関をご利用ください

2020年
1月28日[火]~3月22日[日] 福岡市美術館 特別展示室
[休館日]月曜日(ただし2月24日は開館し、翌2月25日を休館) [時間]午前9時30分~午後5時30分(入館は午後5時まで)

表情や仕草の一瞬を捉えた、美人画の巨匠

喜多川歌麿

きたがわらたまる (1753頃～1806)



「婦人相学十帖 浮気之相」
寛政4～5年(1792～93)頃 大判錦絵
メトロポリタン美術館蔵 [展示期間: 1月28日～2月24日]
Photo: Metropolitan Institute of Art

「いわずと知れた美人画の名手。とくに人物の上身の描きを描く『大首絵』を得意としました。恋に悩み、心ときめかす表情や、ふとしたしぐさに隠された心の動きなど、全身描写では分からないことを、大首絵で表現しました。」



「婦人相学十帖 ポベンを吹く娘」
寛政4～5年(1792～93)頃
大判錦絵 メトロポリタン美術館蔵
[展示期間: 2月11日～3月1日]
Image copyright © The Metropolitan Museum of Art / Image source: Art Resource, NY

彗星のごとく現れ、消えた謎の絵師

東洲斎写楽

とうしゅうさいのしやらく (生没年不詳)



「市川團藏の竹村定之進」
寛政6年(1794)5月 大判錦絵
ホスト美術館蔵
[展示期間: 1月28日～2月24日]
Photograph © Museum of Fine Arts, Boston

寛政6年(1794)、黒雲母摺りの役者大首絵28枚によりデビューを果たすも、ほどなくして筆を置いた、謎多き絵師。役者の顔を誇張した描写は前例のないもので、浮世絵界に衝撃を与えました。」



「3代目大谷鬼次の江戸兵衛」
寛政6年(1794)5月 大判錦絵
シカゴ美術館蔵
[展示期間: 1月28日～3月22日]
Photography © The Arts Institution of Chicago / Image source: Art Resource, NY

90年の生涯のうち、70年にわたって浮世絵のすべてのジャンルにおいて第一線で描き続けた巨人。「富嶽三十六景」をはじめとする、70代前半の風景画を中心とした錦絵の連作は、洋風画学習の成果や、動感と緊張感に富む構図など、それまでの試みや経験が見事に開花しています。」



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
天保2～4年(1831-33)頃 大判錦絵
ミネアポリス美術館蔵 [展示期間: 1月28日～2月24日]
Photo: Minneapolis Institute of Art

森羅万象の描写に人生をささげた万能の絵師

葛飾北斎

かつしかほくさい (1760～1849)



「富嶽三十六景 凱風快晴」(部分)
天保2～4年(1831-33)頃 大判錦絵
東京都江戸東京博物館蔵
[展示期間: 2月26日～3月22日]

作品保護のため、会期中展示替えをいたします

5人の浮世絵師の代表作を一堂に

浮世絵(Ukiyoe)の歴史の中でも、キラ星のごとく輝いた人気絵師である喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川国芳、歌川国貞の5人にフォーカスし、国内のほか欧米の美術館、博物館、個人コレクション等から傑作だけを集めました。

歌麿は美人画、写楽は役者絵、北斎と広重は風景画、国芳は勇壮な武者絵と機知に富んだ戯画——と、各絵師が得意としたテーマで精選した作品群、約300点を紹介(会期中は展示替えを行い、常時約150点を陳列)。世界を魅了する浮世絵の美のエッセンスを存分に堪能ください。

劇的な武者絵から、アイデア満載の戯画まで

歌川国芳

うたがわくによし (1797～1861)

若い頃は多彩なジャンルの作をこなしましたが、北斎の「富嶽三十六景」に刺激を受けてか風景画を描きはじめ、「東海道五拾三次之内」以降、各地の名所や宿場に取材し、それを抒情的で風情のある図に仕立てる名人として名を馳せました。



「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」
天保5～7年(1834～36)頃 大判錦絵
東京都江戸東京博物館蔵
[展示期間: 2月26日～3月22日]



「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」
安政4年(1857)9月 大判錦絵
東京都江戸東京博物館蔵
[展示期間: 1月28日～2月24日]

豊かな発想で次々とアイデアを出し続け、幕末の浮世絵界を活性化させた絵師。特に勇壮な武者絵や、三枚続の画面にワイドに展開する歴史画や動物を擬人化させて描く戯画は、時代を超えて現代人にも高く評価されています。



「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」
安政4年(1857)9月 大判錦絵
東京都江戸東京博物館蔵
[展示期間: 1月28日～2月24日]



「宮本武蔵の鯨退治」
弘化4年(1847)頃 大判錦絵3枚続
[展示期間: 1月28日～2月24日]



「みかけハコハみがとんだい、人だ」
弘化4年(1847)頃 大判錦絵
[展示期間: 2月26日～3月22日]



「其ま、地口猫飼好五十三正」
嘉永元年(1848)頃 大判錦絵3枚続
[展示期間: 1月28日～2月24日]

特別講演会

1 2020年2月1日(土) 14:00～15:30
「浮世絵の愉しさ、懐かしさ」
講師: 小林 忠氏
(国際浮世絵学会会長、岡田美術館館長)

2 2020年2月22日(土) 14:00～15:30
「歌麿の新しさとその魅力」
講師: 浅野 秀剛氏
(国際浮世絵学会理事、大和文庫館長、あべのハルカス美術館館長)

3 2020年2月29日(土) 14:00～15:30
「北斎か広重か」
講師: 神谷 浩氏
(国際浮世絵学会常任理事、徳川美術館副館長兼学芸部長)

◎会場: 福岡市美術館1階・ミュージアムホール
お申込み方法: ハガキ、FAX、Eメールにご希望の講演会名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、希望人数(1件につき、最大2名まで受付可)を明記のうえ、下記宛にお申込みください。
〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞イベントサービス内「大浮世絵展」係
E-mail: ukiyoe_fuk@nishinippon-event.com.jp FAX: 092-731-5210
TEL: 092-711-5491 (土・日・祝と12/28～1/5除く 平日午前9:30～午後5:30)

◎申込締切: ①「浮世絵の愉しさ、懐かしさ」1月16日(木)必着
②「歌麿の新しさとその魅力」2月6日(木)必着
③「北斎か広重か」2月13日(木)必着
※2名でご応募される場合は、それぞれの氏名、年齢を明記して下さい。
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
※当選者の発表は聴講券の発送をもってかえさせていただきます。
※ご応募の際にいただいた個人情報は、本イベントのご連絡のみに使用させていただきます。